



「社会的支援体制を整えることで、失語症のある方が暮らしやすい毎日を送れるよう今後も活動に力を入れていきます」



鹿児島県言語聴覚士会
言語聴覚士

【^{そめ}かわ ^まきよ ^よ】さん 鹿児島市

失語症者が地域で暮らす際の コミュニケーションをサポート

普段私たちが自然に行っている『話す』『聞く』『書く』『読む』『食べる』ことが、病気や事故、加齢などで不自由になることがあります。言語聴覚士とは、こうした言葉によるコミュニケーションや飲み込みの問題がある人々を、医療、福祉、教育など各分野の専門職と連携し、より良い生活が送れるようサポートしていく仕事です。言語障害の一つである失語症に興味をもったことをきっかけに言語聴覚士になった染川眞喜代さんは、介護老人保健施設に勤務しながら、一昨年、日本言語聴覚士協会が実施する『失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修』を修了しました。

書く、読む、計算などが難しくなります。

例えると、『突然知らない外国語の中に放り出されたような感じ』になります。その人らしい人格や感情表現、時間や場所の感覚など言葉以外の側面は保たれます。失語症のある方は、コミュニケーション障害があります。が、見た目では分かりにくい。ため、社会の中で認知されにくく、社会的支援体制が整備されていないのが現状です。』と染川さんは話します。

失語症への理解を深める 意思疎通支援者の養成講座

そういった問題を解決するために、鹿児島県でも2020年から意思疎通支援者の養成講座(実習を含む)が開始される予定です。意思疎通支援の具体例としては、交通機関や公共施設、買い物・娯楽施設などの利用援助、会議での内容理解援助などがあります。

また、染川さんは失語症のある方に対するリハビリは、対面の治療だけでなく、生活



言語聴覚士会では、9月1日の「言語聴覚の日」をアピールするため、毎年「ことばの相談会」を開催しています

の場面でのいろいろな刺激や、周りの人とのコミュニケーションが大事だと考えています。失語症のある方は全国に約20〜50万人いるといわれ、鹿児島県で2018年に言語聴覚士が関わった患者は1400人以上です。染川さんは支援者の養成とともに、当事者団体などで作られる「失語症友の会」のような、失語症のある方が集まれる場所を作りたい、家族同士が悩みを相談し合える場所をつくりたい、と奔走しています。「失語症の理解者をたくさん作るのが私の仕事」。染川さんの放つ言葉には、失語症のある方への希望の光が見えるようです。

一般社団法人 鹿児島県言語聴覚士会(事務局 鹿児島医療技術専門学校 言語聴覚療法学科)

鹿児島市平川町宇都口5417-1
TEL 099-261-6161
FAX 099-262-5252
HP <http://st-ba.net/>

